

平成28年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校 6 年生、中学校 3 年生

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題（国語 A、算数・数学 A）
- ・主として「活用」に関する問題（国語 B、算数・数学 B）

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査期日

平成 28 年 4 月 19 日（火）



(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	12 校	12 校（100%）	372 人
中学校	7 校	7 校（100%）	442 人

2. 教科に関する調査結果

1 概要について

小・中学校とも大変良好な状況です

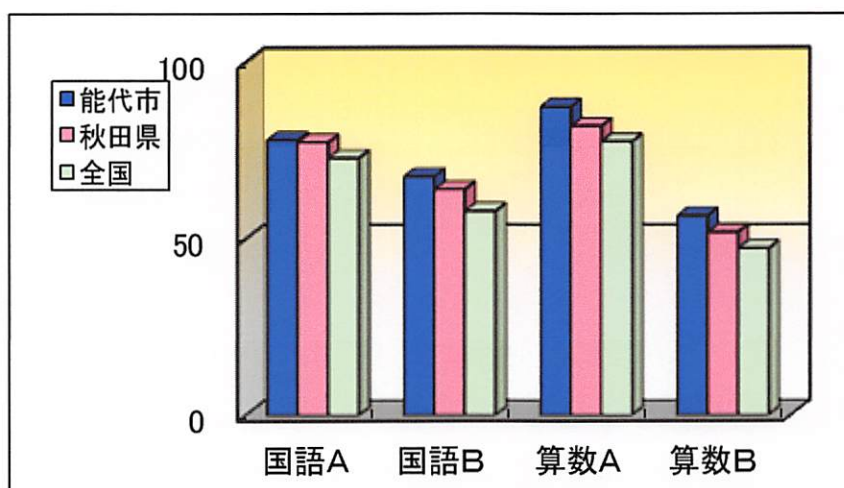
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・Bの全てで全国平均を大きく上回っています。特に小学校国語B、算数A、B及び、中学校国語Bは全国平均を10ポイント近く上回っています

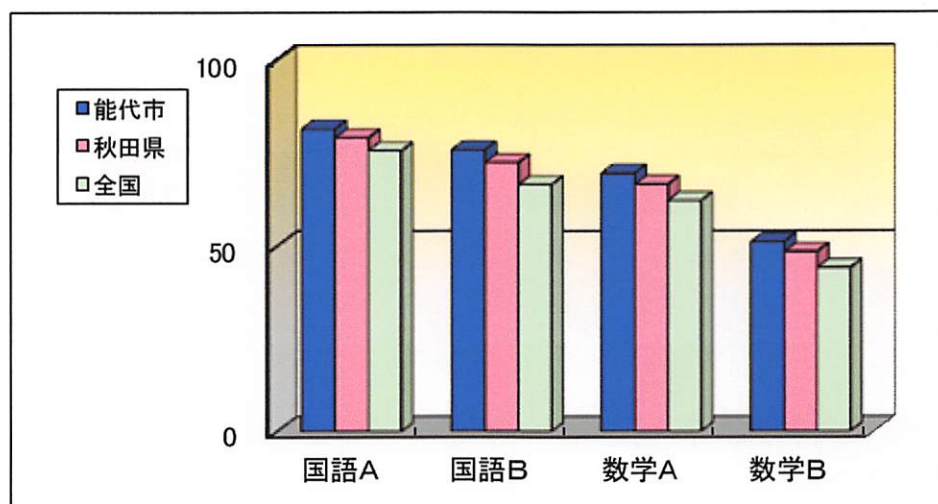
(2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・Bの全てで秋田県平均を上回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率

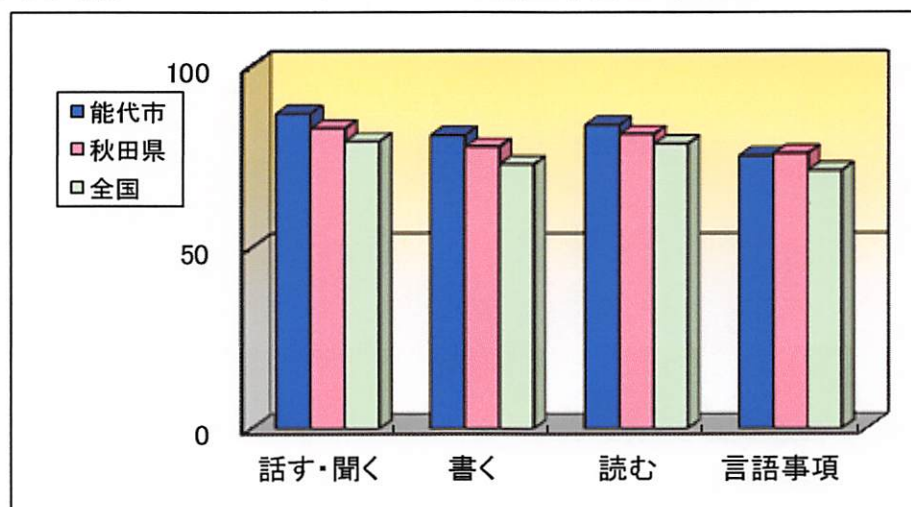


(4) 中学校3年生平均正答率



3. 教科に関する調査結果(小 国語A)

1 小学校国語Aについて（主として知識に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

3領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を上回ったものの、言語事項で秋田県平均を0.6ポイント下回りました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中11問において、全国及び秋田県平均を上回っています。



書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する、書く能力が特に良好です。

指導改善のポイントとして学校での取組



全国及び秋田県平均を下回る正答率だったのは、ローマ字の3問でした。

「りんご」→ringo

「あさって」→asatte

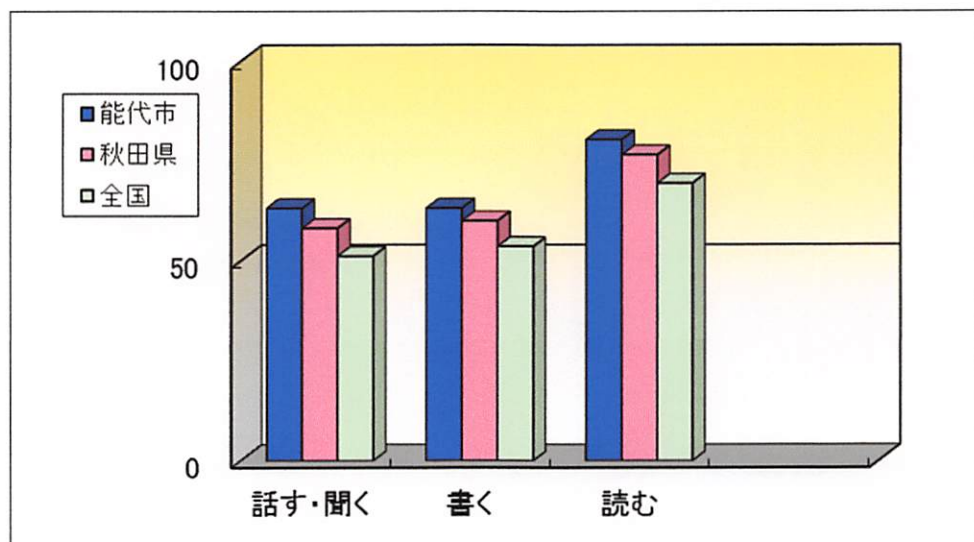
「hyaku」→ひゃく

【設問番号 8-1、8-2、8-3】

第3学年で、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くことを学習しています。その時には覚えていても忘れてしまうことも多いので、一行日記をローマ字で書くなど、ローマ字に触れることを継続的に行うことが大切です。

3. 教科に関する調査結果(小 国語B)

1 小学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

10の設問中、8問において、全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」等「話すこと・聞くこと」の問題は、全国平均・秋田県平均を大きく上回りました。

指導改善のポイントとして学校での取組



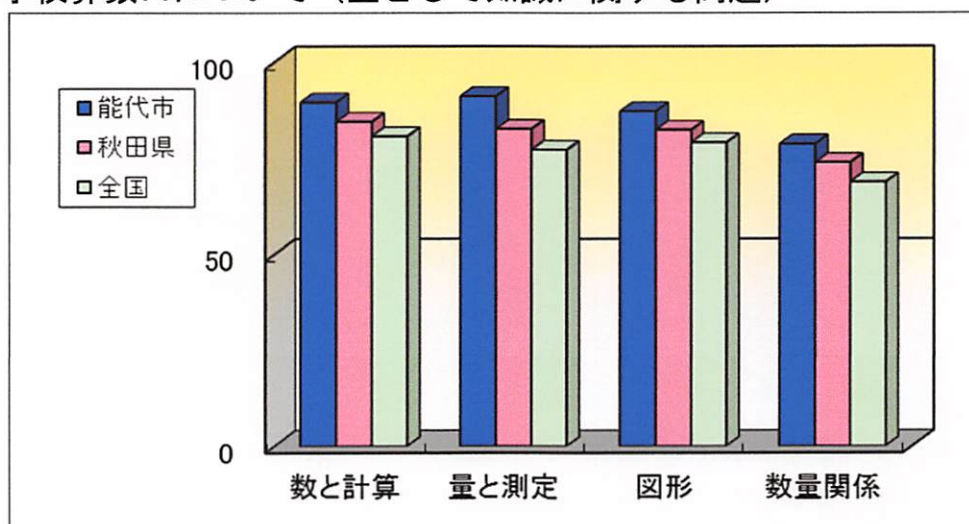
全10問中の中で、正答率が低かったのは、「グラフを基に、分かったことを的確に書く」問題や「グラフを基に自分の考えを書く」問題でした。



描写や説明を行うとき、どのような引用をするのがよいのか、図表やグラフのいずれを用いるのがよいかなど、
国語の時間に限らず、様々な場面で、自分の考えをまとめるときは、記述の方法としてふさわしいもの考えるように習慣付けることが大切です。

3. 教科に関する調査結果(小 算数A)

1 小学校算数Aについて（主として知識に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

16問中16問、全ての設問で全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、「8㎡に14人座っているシートについて1㎡当たりの人数を求める式」、単位量当たりの大きさの求め方については、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。 【設問 4】



「7.1、7、7.01 の中で一番小さい数と一番大きい数を書く」という数の大小関係を問う問題でも、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。 【設問3 (2)】

指導改善のポイントとして学校での取組

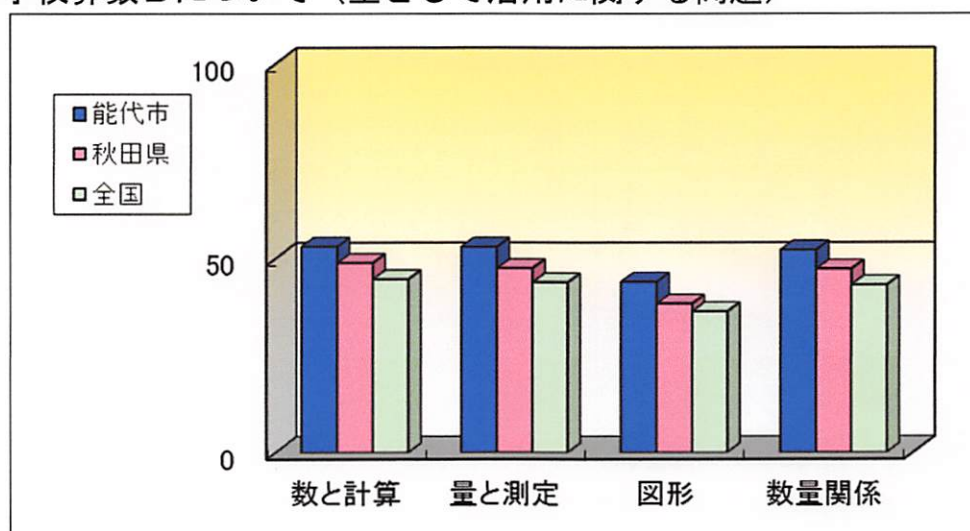
算数のA問題は、主として「知識」に関する問題が出題されています。

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などです。

どの学校もそのような「知識」を身に付ける授業が行われていることが分かります。

3. 教科に関する調査結果(小 算数B)

1 小学校算数Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を大きく上回り、秋田県平均も上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

13問中13問全てが、全国及び秋田県平均を上回っています。



特に、全国及び秋田県平均を大きく上回っていたのは、「乗法や除法の式の意味を解釈する」問題です。

【設問 3 (1)】



「学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計の他に調べる必要のある事柄を選ぶ」問題も、全国平均及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問 4 (1)】

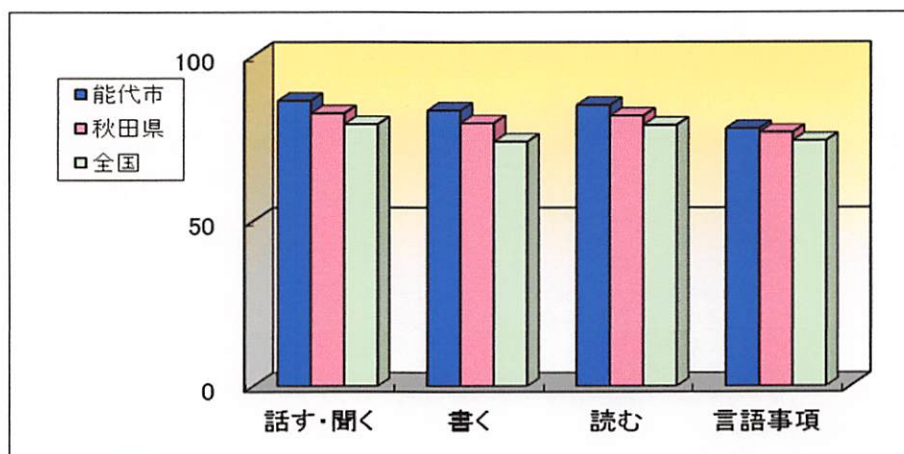
指導改善のポイントとして学校での取組

無回答率が高かった問題が式の意味や正三角形ができる理由などを「記述する」問題でした。学習指導要領の「算数的活動」の中に、「説明する活動」が取り入れられています。

図や表から情報を読み取る力や説明する力を算数教育で身に付けさせることが必要です。

3. 教科に関する調査結果(中 国語A)

1 中学校国語Aについて（主として知識に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

4 領域において良好な状況です。

4 領域全てにおいて、全国及び秋田県平均を上回りました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

33問中、全国平均を下回ったのは、1問。秋田県平均を下回ったのは、4問でした。



正答率100%の問題

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題

「厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています。」

【設問9三イ】



全国平均・秋田県平均を下回った問題

奥付を使って本についての情報を得る問題

「資料集を活用する時の留意点を説明したものとして適切なものを選択する」

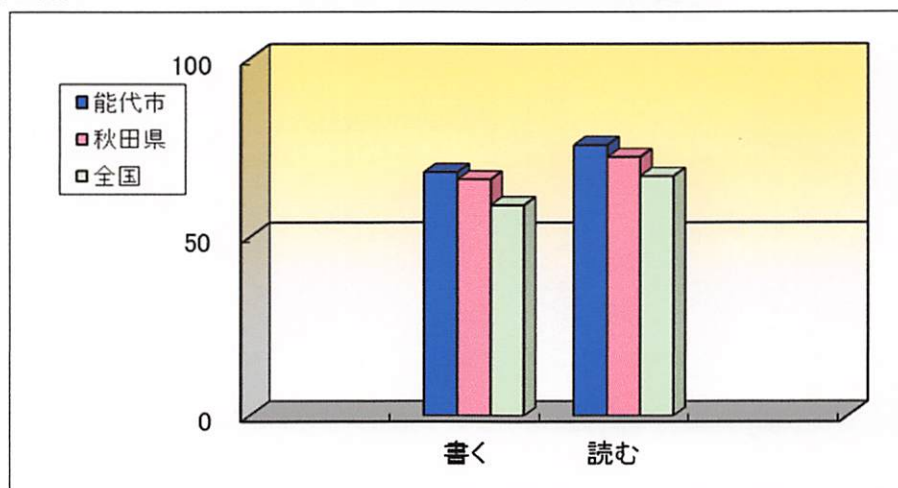
【設問 8二】

指導改善のポイントとして学校での取組

「必要な情報を集めるための方法」とは、それぞれの資料の特性を生かした読み方をすることです。必要な部分に効率よく着目するためには、様々な資料の形式について理解することや、読む目的や対象によって読み方が変わること理解させるための経験を授業の中で意図的に行っていくかなければなりません。

3. 教科に関する調査結果(中 国語B)

1 中学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



※国語Bに「言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容はありません。

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全設問（9問）全てで、全国平均、秋田県平均を上回りました。



全国平均を 10P 以上上回った問題
目的に応じて文章を要約する問題
「情報カードにまとめる内容
として適切なものを選択する」
【設問2二】



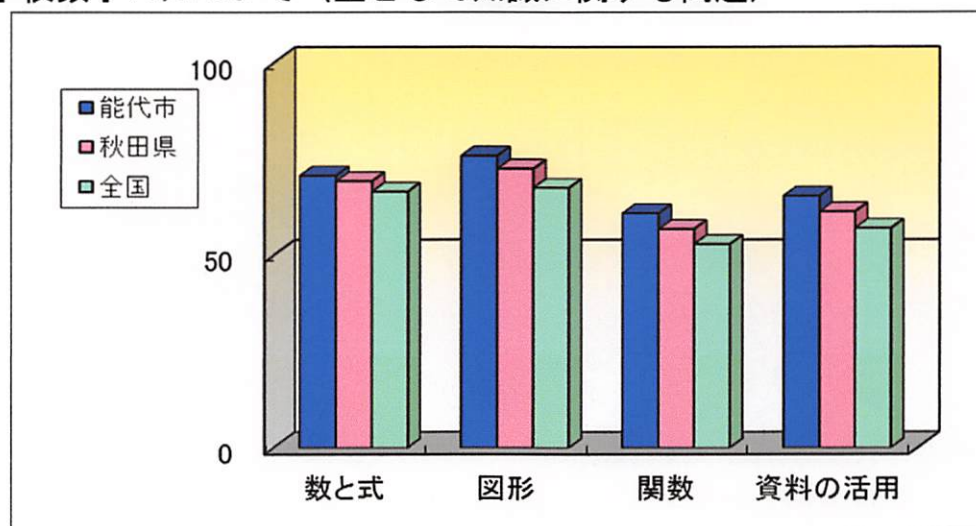
全国平均を 10P 以上上回った問題
本や文章などから必要な
情報を読み取り、根拠を明
確にして自分の考えを
書く問題
【設問3三】

指導改善のポイントとして学校での取組

普段の授業において、資料から分かることや筆者の主張に対して主体的に判断したり評価したりし、自分の考えや立場を明らかにして表現する活動を設定しているため、B問題が特に優れています。

3. 教科に関する調査結果(中 数学A)

1 中学校数学Aについて（主として知識に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全設問（36問）において、31問全国平均を上回っています。秋田県平均を下回ったのは5問でした。



全国平均を10P以上上回った問題

「縦と横の長さの比が5：8の長方形の看板について、縦の長さが45 cmの時の、横の長さX cmを決めるための比例式を作る」
【設問 3 (3)】



全国・県平均ともに下回った問題

自然数の意味を理解する問題

「-5、0、1、2.5、4の中から自然数を全て選ぶ」

【設問1 (2)】

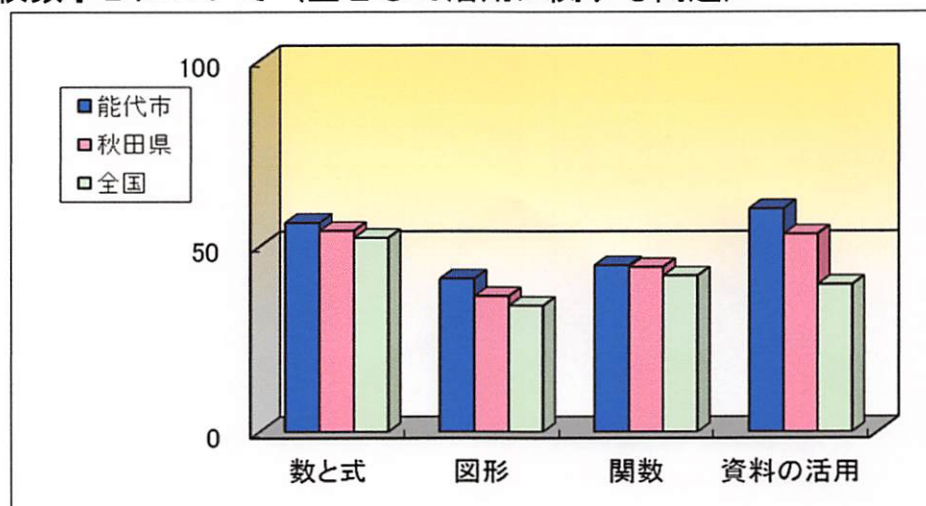
指導改善のポイントとして学校での取組

算数・数学の授業における言語活動には、算数用語を使えることが求められています。

既習の算数・数学用語を忘れないためにも、数学の言語環境を整えることが大切です。

3. 教科に関する調査結果(中 数学B)

1 中学校数学Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

15問全てが全国平均を上回っています。秋田県平均を下回ったのは2問でした。



全国平均を30P上回った問題
与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する問題
「25.5 cmの靴が貸し出された回数
の相対度数を求める式を書く」
【設問5(2)】



県平均を下回った問題
条件を基に、表から数量の変化や対応
の特徴を捉えXの値に対応するYの
値を求めることができる
「一次関数の表からX=4の
ときのYの値を求める」
【設問2(1)】

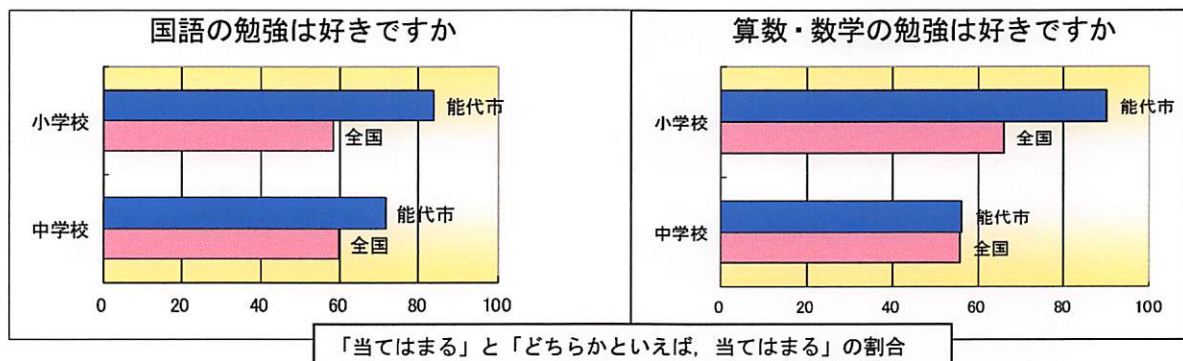
指導改善のポイントとして学校での取組

第1学年では、関数関係にある二つの数量
について、変化や対応の特徴をとらえるため
に、表、式、グラフを用いることを学習。第
2学年では、一次関数の特徴を、表、式、グ
ラフでとらえるとともに、それらを相互に関
連づけることで、一次関数についての理解を
深めることが大切です。学習の積み重ねが大
切です。

4. 質問紙調査結果(1)

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

国語、算数に対する関心や意欲が高い児童生徒が多い

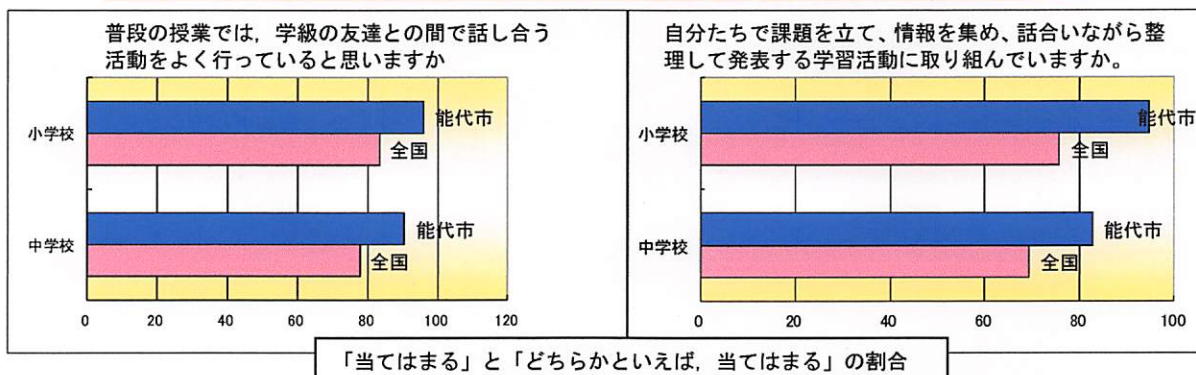


特に、小・中学校の国語と小学校の算数は、全国平均を大きく上回っています。

中学校数学では、全国平均をわずかに上回っているものの、県平均は5ポイント下回りました。関心・意欲を引き出す授業の改善が必要です。

(2) 学習状況

- ・ 普段の授業では、話し合い活動がよく行われている
- ・ 「秋田の探究型授業」が定着してきている



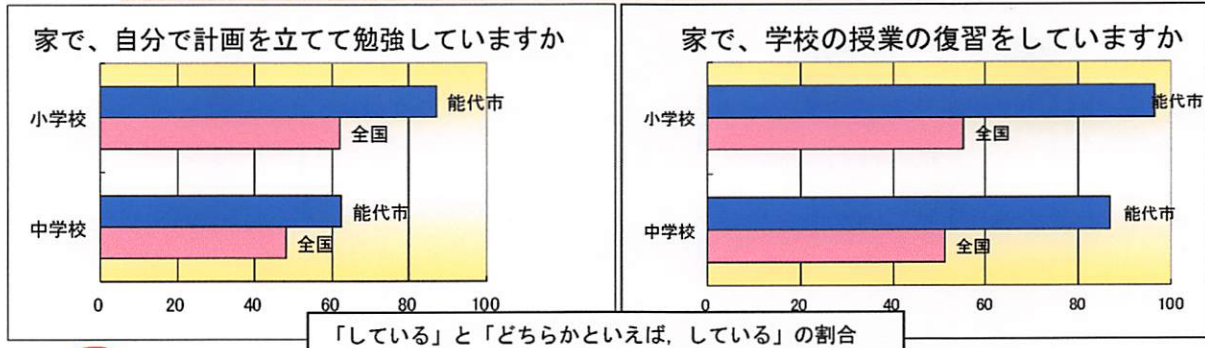
友達と話し合うことを通して、お互いに学び合う学習スタイルが確立されています。小・中ともに、全国を大きく上回っています。

秋田の探究型授業を意識した授業に取り組んでいるため、小・中ともに、全国平均を大きく上回るが、中学校では、県平均をわずかに下回っています。

4. 質問紙調査結果(2)

(3) 学習時間

- ・家で、自分で計画を立てて勉強する児童が多い
- ・家で、学校の授業の復習をしている児童生徒が大変多い



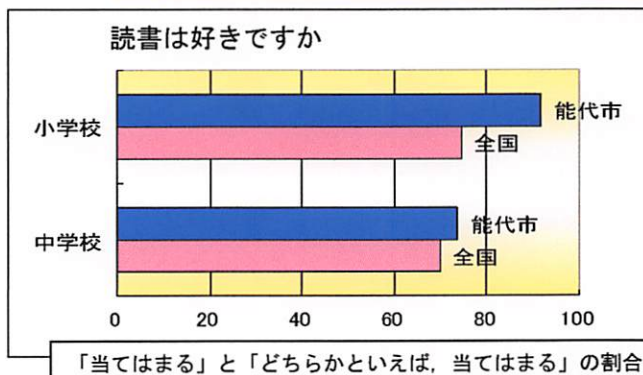
家庭学習は習慣として定着していると言えます。家庭の協力が大きいと言えます。

※中学校の肯定的回答率は、全国平均を14.1P上回っているものの、秋田県平均より4.7ポイント下回っています。

小・中学校ともに、全国平均を20P上回りました。予習よりも復習を中心に学習していることが分かります。

※「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問においては、中学校の肯定的回答率は、秋田県平均を9.8ポイント下回っています。

- ・平成27年度は「不読率」が県平均を下回る



中学校では、全国平均を上回っていますが、秋田県平均と比べると約6.1ポイント下回っています。しかし、少しずつではありますが、その傾向も回復しつつありますので、さらに、魅力的な学校図書館経営に努めていきたいと思います。

能代市子ども読書活動推進計画

(平成27年度～

平成31年度)

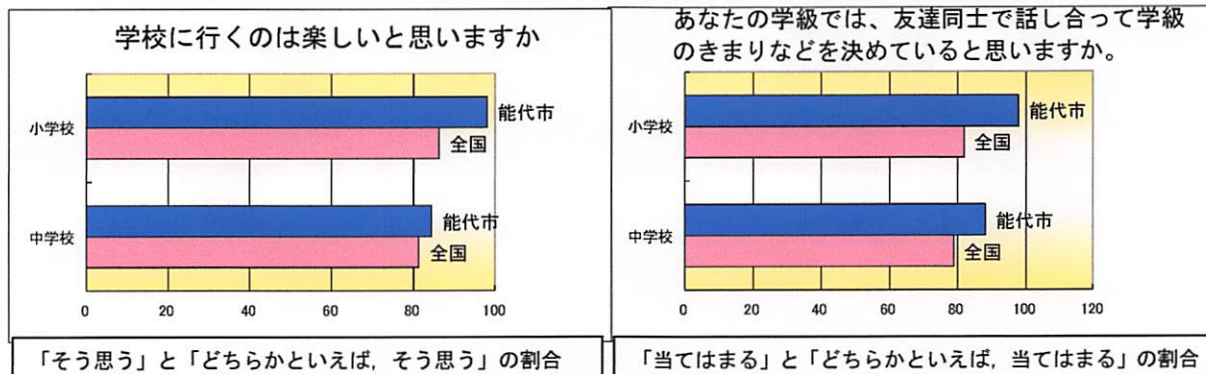


子どもの読書活動を推進するために、発達段階(乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期)に応じた様々な取組を行っています。平成27年度は小・中学校、全ての学年で「不読率」が県平均を下回りました。各学校の取組の成果です。

4. 質問紙調査結果(3)

(4) 学校生活

- ・「学校は楽しい」、「友達同士で話し合っている」と思っている児童生徒が多い

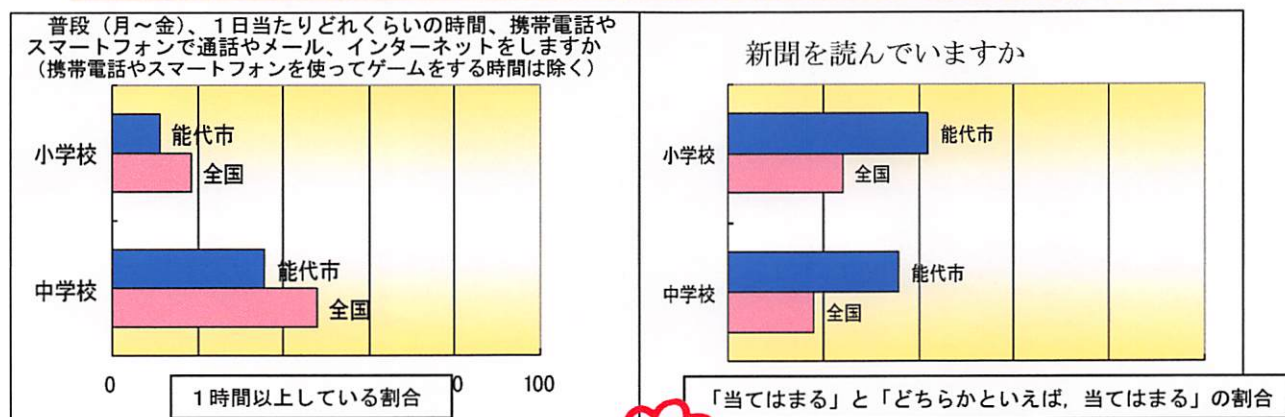


充実した学校生活を送っていることが分かります。その中に、楽しいと思っていない児童生徒がいることも忘れてはいけないうことだと思ひます。

「学級のきまり」は一例であり、みんなでよりよい学級をつくるために話し合ひを大事にしていることが分かります。

(5) 基本的生活習慣

- ・中学3年生の約4割が、携帯・スマホを1日1時間以上使用している
- ・新聞が児童生徒の身近なものになっている



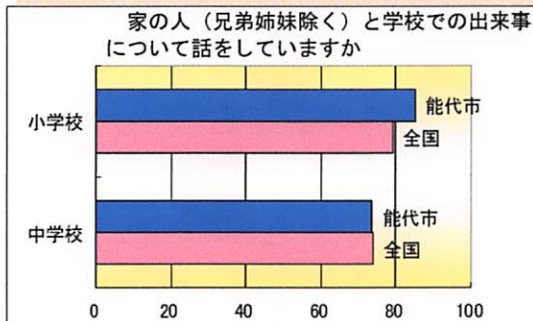
県平均や全国平均は下回りましたが、中学3年生の約4割が平日1時間以上使用しています。また、8人に1人が2時間以上使用していると回答しています。使用する場合のルールが大切だと思ひます。

小・中学校ともに、全国平均を約20P、県平均を10P以上上回っています。新聞を授業の中に取り入れる等の実践により、児童生徒にとって新聞は、身近なものに変わったのだと思ひます。

4. 質問紙調査結果(4)

(6) 家庭でのコミュニケーション

家で学校の出来事を話す中学生が、全国平均を下回る



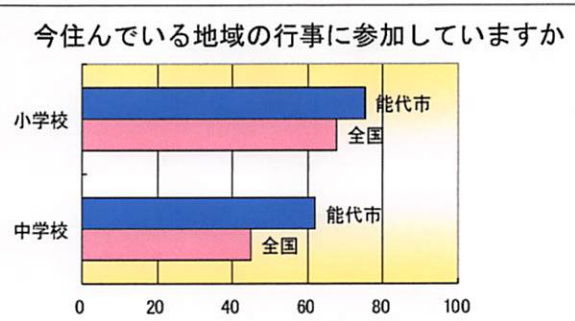
「している」と「どちらかといえば、している」の割合



中学校では、全国平均より0.3ポイント、県平均より6.5P下回っています。家庭でのコミュニケーションが様々な問題解決につながることもあります。ぜひ、子どもと向き合う時間を大切にするよう各家庭に啓発してほしいと思います。

(7) 地域との関わり

地域の行事に参加している

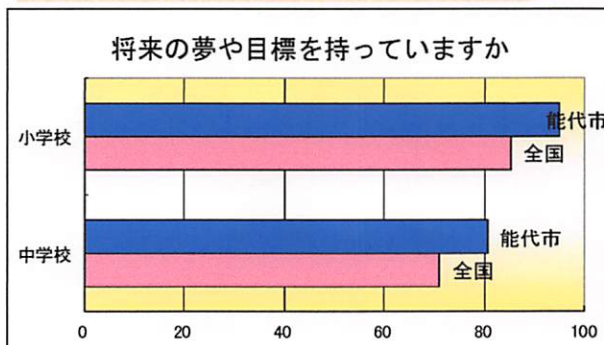


「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

肯定的な回答をしている割合は全国平均を上回っています。特に中学校では、秋田県平均も7P上回っています。また、中学校は地域のボランティアにおいても県平均、全国平均を上回っています。

(8) 将来に関する意識

夢や目標をきちんと持っている

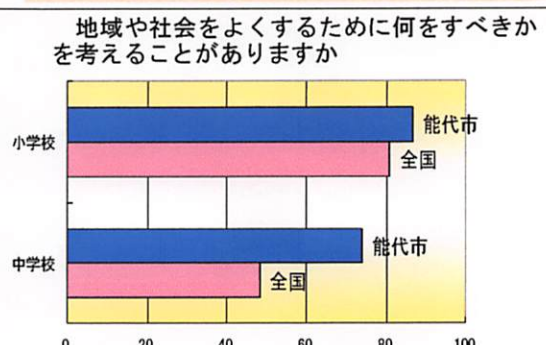


「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の割合

自分の夢や目標をもつことは、粘り強く努力し続ける姿勢や様々な知識や技術等を得ようとする意欲につながっていきます。

(9) 社会に対する興味・関心

社会に対する興味・関心が高い

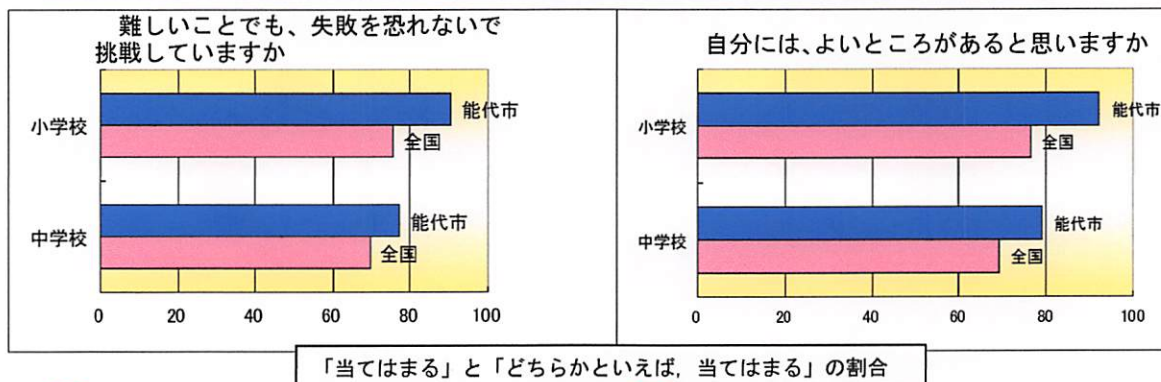


各校が取り組んでいる「ふるさと教育」が効果を上げていると考えられます。秋田県のふるさと教育のねらいである「よさの発見」「愛着心の醸成」にとどまらず、「ふるさとに生きる意欲の喚起」が育まれていると感じます。

4. 質問紙調査結果(5)

(10) 自尊意識

- ・ 難しいことにも失敗を恐れず挑戦している児童生徒が多い
- ・ 自分には、よいところがあると思っている児童生徒が多い

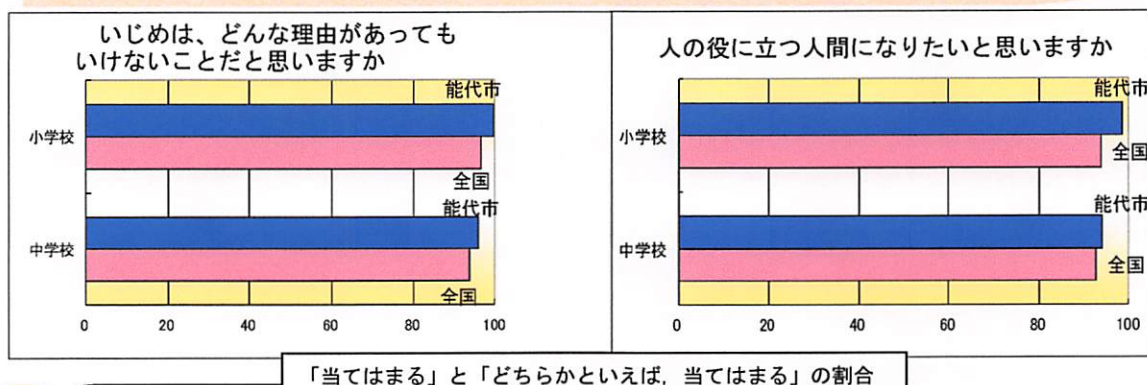


自分に自信をもち、前向きに物事に取り組んでいる様子がうかがえます。

今後も、授業や学校行事等で活躍の場を与え、褒めて認めながら、自己肯定感を高めていく配慮が必要です。

(11) 規範意識

- ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒が多いが…
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒が多い



小学校では、ほぼ100%の結果でした。今後も、「いじめはどんな理由があってもいけない」ことについて、心にしみるような指導をしていくことが重要です。

人の役に立ちたいと思う気持ちを大切に、自己有用感を高めるための機会や場を意図的につくっていくことも必要です。